

下呂農林事務所の普及活動状況 令和6年9月30日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■長期研修生 青年等就農計画の作成支援

下呂市では、来年4月から就農する長期研修2年目の2名が「飛騨トマト研修農園 in 下呂」の自らが管理するハウスで実践的な研修を行っています。

研修生らは、市から「認定新規就農者」の認定を受けるため、4月以降、青年等就農計画（以下「計画」という。）の作成を進めています。

9月13日と20日には、下呂総合庁舎内で市農務課と連携し、計画作成の相談会を開催し、現在の計画の作成状況などを確認しました。

研修生からは、「収支計画や将来像などについて考えるのは難しいが、将来自分が目指す農業経営を考える良い機会となった。頑張って作成したい。」などの意見があり、前向きに取り組む姿勢が確認できました。

今後、研修生らは11月中旬までに市へ計画を提出し、12月に開催される認定審査会において、自らの計画について説明することになります。

農業普及課では、引き続き、研修生、市担当者と連携し、円滑に就農できるよう計画作成などの支援を行っています。
(地域支援係)



【個別相談会の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水稻 良食味米品種「きぬむすめ」の成熟期調査を実施

農業普及課では、近年の夏の猛暑による米の品質低下を軽減するため、令和4年度から下呂市萩原町内で、夏の高温にも強く、品質・食味に優れる品種の検討を進めています。

5月15日に田植えをした「きぬむすめ」の実証ほかが収穫間近となり、9月20日、農業普及課で成熟期調査と坪刈りを行いました。

結果、「きぬむすめ」の稈長（草丈）は69cmで、地域で栽培されているコシヒカリに比べ約6cm短く、倒伏もしていませんでした。また、㎡当たりの穂数は272本確保できていました。

今後、農業普及課では、5か所の実証ほかで坪刈りしたサンプルが乾燥できしだい、籾すり・精選を行い、収量や玄米品質、食味などを調査し、今年度の成果を取りまとめることとしています。

(地域支援係)



【「きぬむすめ」の坪刈りの様子】